

看護基礎教育「看護研究」の卒後の研究活動への役立ち

—過去5年間の卒業生を対象とした調査から—

岡 宏美¹⁾*・栗本 一美¹⁾・木下 香織¹⁾・古城 幸子¹⁾

1) 看護学科

(2006年11月7日受理)

現在、看護研究は臨床現場においても欠かせないものとなってきた。そこで、A短期大学（以下A短大）の看護学科卒業生を対象に、臨床現場での研究の実状を把握し、看護基礎教育としての『看護研究』の、卒業後（以下卒後）の研究活動への役立ちと、今後、学生における『看護研究』への教育指導上の課題を明らかにするために、アンケート調査を行った。その結果、「研究方法」では、事例研究と質問紙による調査研究方法が多く使われていた。これは学生のときの「研究方法」と異なっており、それに伴って「データ分析」方法も異なるため役立ちに結びついていないことがわかった。「論文作成」については、学生時代の研究経験が役立っており、教育効果が認められた。全体として、『看護研究』を経験することについて、「良かった」と回答したものが8割を超えており、卒後の研究活動に役立ったといえる。今後は、研究方法論が多く学べるようなゼミ形式の導入などについての検討を行うこと、また、卒業生が相談できるようなサポート体制などの検討が必要である。

(キーワード) 看護研究、看護基礎教育、卒業生、役立ち

はじめに

看護基礎教育における『看護研究』のねらいは研究過程を学び、研究的態度を育成することである。近年、看護研究委員会を設け、院内発表会を行っている病院が多く、臨床での看護研究は臨床において欠かせないものとなってきた。今後、臨床看護師は看護系学会の増加に伴って、院外へ発表する機会も増えていくと思われる。そこで今回、臨床現場での研究の実状を把握し、A短大において、長年にわたり取り組んできた看護基礎教育としての『看護研究』が、卒後の研究活動にどのくらい役立っているのかを検討すること、また今後、本学における『看護研究』への教育指導上の課題を明らかにすることを目的に、A短大の卒業生を対象にアンケート調査を行うことにした。

I 研究目的

卒業生の多くが臨床現場で看護研究に取り組んでいるが、看護基礎教育での学びが卒後の看護研究活動で役立っているのか、また今後の教育指導上の課題を明らかにする。

II 研究方法

1. 調査対象

A短大3年課程の2000～2004年度卒業生のうち、住所の明らかな285名を対象とした。以下、卒業年度により2000年度を卒後5年とし、順に2001年度を卒後4年、2002年度を卒後3年、2003年度を卒後2年、2004年度を卒後1年とする。

*連絡先：岡宏美 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

2. 調査期間

2006年1月25日～2月15日

3. 調査方法

多肢選択式と自由記述法を併用した自記式質問紙（資料1参照）を作成し、郵送にて配布、回収した。回収数は102部（回収率35.8%）であった。

4. 分析方法

単純集計を行い、年度間における臨床での看護研究の経験の有無などを比較した。

5. 倫理的配慮

研究の目的と方法、調査への参加は自由意志であり、データは統計的に処理し、匿名性が保持されることを文書にて説明し、返信を持って同意を得た。

III 結果（資料2参照）

1. 臨床での研究経験

1) 研究経験

285名の回答者のうち38名（37.3%）が『卒後の看護研究経験』があった。卒後5年で「ある」が11名中8名、「ない」が3名であった。卒後4年は「ある」が18名中10名、「ない」が8名であった。卒後3年は「ある」が19名中8名、「ない」が11名であった。卒後2年は「ある」が20名中9名、「ない」が11名であった。卒後1年は「ある」が33名中3名、「ない」が28名であった。卒後2年目で急に経験数が増加している。『研究経験を何回したか』をたずねたところ、最も多い回数で3回であった。また『研究に関わった人数』は、「1人」が全体で11名（30.6%）、「2人以上」が25名（69.4%）で

表1 研究のキーワード

| | 看護管理 | 所属病棟・施設の特徴 | 患者のケア |
|------|--|--|---|
| 卒後1年 | | <ul style="list-style-type: none"> ・育児不安 ・イレウス | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護 ・家族支援 ・受け持ち患者 |
| 卒後2年 | | <ul style="list-style-type: none"> ・パウチ交換の指導 ・バルン抜去後の尿もれ予防 ・乳房切除患者へのボディイメージのサポート ・早産児 ・誘発分娩 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族看護 ・患者参画型看護計画 ・患者の可能性・視野の広がり ・継続看護 ・患者への情報提供 ・セルフコントロール |
| 卒後3年 | <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・カンガルーケア ・眼科・白内障 ・糖尿病 ・小児糖尿病 ・母乳栄養 ・皮膚障害 | <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定に対しての看護師に出来るサポート ・自己点眼指導 ・急性期閉鎖病棟・家族看護 ・治療に対する患者の意思決定 |
| 卒後4年 | <ul style="list-style-type: none"> ・新人教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・小児喘息 ・小児の転落事故 ・初産婦 ・人工呼吸器感染 ・脊椎後方手術 | <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡 ・透析患者の掻痒感 ・IVHから経口摂取へ |
| 卒後5年 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護教育 ・クリティカルパス ・倫理 ・長期在院日数 ・地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・血液透析 ・小児 ・がん看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・抑制 ・疼痛 ・患者教育指導 |

あった。臨床での研究は、グループで行われることが多いことがわかった。

2) 研究テーマ

『研究のキーワード』について(表1)は、卒後1・2年では受け持ち患者のケアに関する研究が多く、卒後3・4年は勤務病棟に関する疾患や、ケアについての研究、また、卒後5年は病棟の看護管理や倫理、新人教育などであった。

3) 研究方法

『研究方法』については、事例研究と質問紙による調査研究が多い結果となった(図1)。

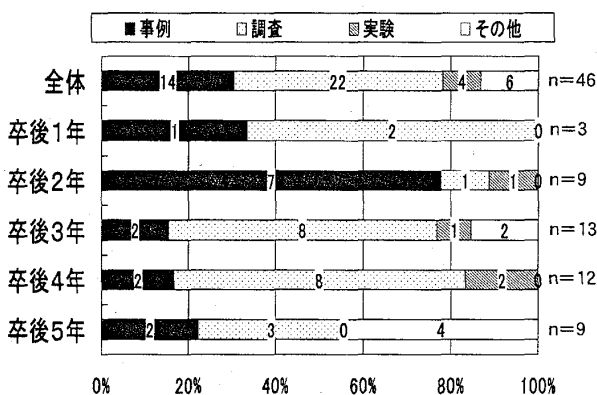


図1 臨床現場での研究方法

4) 発表方法

『研究の発表経験』は、全体で「ある」は32名(88.9%)であり、ほとんどのものが何らかの形で発表を行っていた。また、研究の発表場所は、所属病院内が多く(22名)、院外の学会での発表は予定者を含めて11名であった。院外の学会は、地方学会や日本看護協会主催の学会への参加であった。さらに、『研究を論文として投稿した経験』が、「ある」ものは6名にとどまった。『論文の投稿先』は「院内誌」が3名であり、「院外の学会誌」などに投稿したものは予定者を含め3名であった。

5) 研究指導者

『研究を行うにあたり相談者がいたか』では、研究経験者全員が、相談者が「いた」と答えた。『研究取組み中の相談者』については、院内関係者が74名(84.1%)を占め、その内訳は「師長」17名、「上司」16名、「先輩」20名、「同僚」12名、「院内研究委員」9名であった。院外の者に相談した人は14名であり、内訳は「院外研修指導者」8

名、「その他」6名であった。「その他」は、「大学の教員」「保健所」「共同研究者」であった。大学教員に相談したものが5名(複数回答)と多く、これは勤務病院が大学付属の病院であることが影響していた。

6) 検索方法

『先行研究を検索する手段があったか』は、「ある」と答えたものが全体で36名(97.3%)であり、「ない」は1名のみであった。『検索方法』は「院内図書室」15名、「大学図書室」14名、「インターネット」15名、「医学中央雑誌」18名、「最新看護索引」2名、「その他」4名であった。「その他」の内容は、「看護雑誌」「診療マスター」「病棟内の図書」「業者に依頼」「医者に依頼」であった。

2. 臨床現場で行う看護研究の困難点

『現在、臨床現場で看護研究を行う際、困っていること』について自由記述を求めた。記述から43のデータが得られ、6カテゴリーにまとめられた(表2)。カテゴリーは「テーマ」「時間」「資料不足」「指導・協力」「やる気」「その他」の6つであり、このカテゴリーは平松ら¹⁾、南沢ら²⁾の研究において抽出されている困難・阻害因子と同じような結果となった。

3. 『看護研究』の具体的な役立ち

学生時の『看護研究』の臨床現場での役立ちを、「1:全くあてはまらない」「2:あまりあてはまらない」「3:まあまああてはまる」「4:非常にあてはまる」の4段階にわけ評価を求めた。4段階のうち、4・3を「あてはまる・役立っている」とし、1・2を「あてはまらない・役立っていない」とした。

1) 研究テーマ

学生の時の『研究テーマ』が臨床でも同じかどうかについて尋ねたところ、「あてはまる」は30名(31.6%)、「あてはまらない」は65名(72.2%)であった。年度ごとに比較すると、卒後3年以下のほうが学生時代の研究テーマを継続しているものが多かった。

2) 研究計画書

『研究計画書作成方法』については、「役立っている」が全体で57名(60.6%)、「役立っていない」

い」が37名(39.4%)であった。これも、卒後年数が短いほど「役立ち」の数が増えている。また、『倫理的配慮についての知識』については、「役立っている」が77名(82.8%)、「役立っていない」は16名(17.2%)にとどまった。

表2 臨床現場で看護研究を行う上での困難点

| | |
|-------|--|
| テーマ | 研究テーマが見つからない(4) |
| | 1人での研究でなかったり、指導者が多かったり、自分のやりたい研究の方向性から外れてしまった |
| 時間 | 時間がない(10) |
| | 仕事をしながらは大変(3) |
| | 業務時間外の集まりになるので、負担が大きく、家庭との両立に大変困難、ストレスを感じる |
| | 対象が患者や家族であった場合、処置や対応が終わると大体時間がなくなる |
| | 研究を行う余裕が持てない |
| | 看護協会も遠いためなかなか行けない |
| 資料不足 | 院内に図書室がない(2) |
| | 参考文献不足(2) |
| | 参考図書が取り寄せにくい、院内の図書室が利用しにくい環境 |
| | 資料となる本や学会の本が欲しい |
| | 地元の看護学校には借りに行けない |
| 指導・協力 | 中高年看護師がまったく非協力的 |
| | 研究者のみの力では困難で、スタッフ全員の協力が必要であるが、業務の忙しさに協力を依頼できない現状がありとても大変 |
| | 一人での研究で行き詰まってしまうことが多かった |
| | メンバーが年配になるとPCが使えず若い看護師がすることになる |
| | 内容を細かく臨床指導者にチェックされる きちんとアドバイスできる人がない |
| やる気 | 必ずやらされる (研究が原因で仕事を)やめる人も多い やる気がない |
| その他 | まだ経験がないのでわからない(2) |
| | 研究で得たことを実際の現場で活かすこと、実行していくこと |
| | 早くても2年目から研究に参加していくことになるので、今はまだわからない はっきり言って苦痛 |

3) 文献検索

『文献検索』については、全体の57.8%が「役立っている」と回答している(図2)。しかし、

卒後4年以降が卒後3年未満に比べて、役立ちに若干の差が出た。

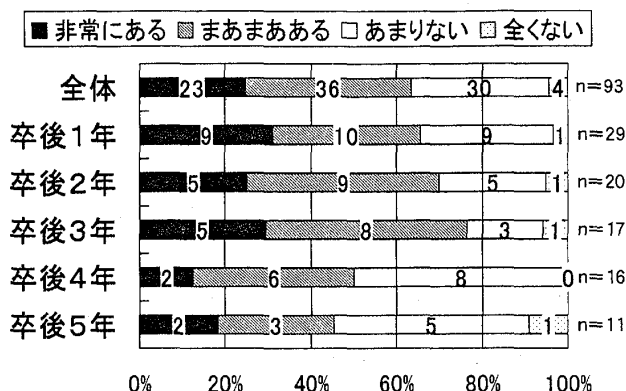


図2 「文献検索」の役立ち

4) データ分析

『データ分析方法』が、全体では39.2%と低く、またどの卒業年度からも評価は低かった(図3)。

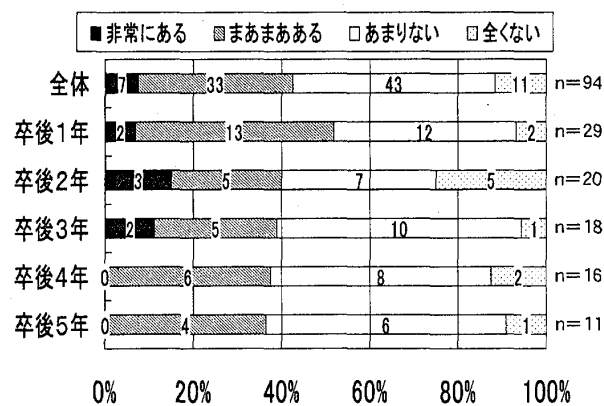


図3 「データ分析方法」の役立ち

5) 論文作成

『論文作成』については、全体で69名(67.6%)が「役立っている」と回答している(図4)。A短大では、『看護研究』論文を一人一編ずつ書く

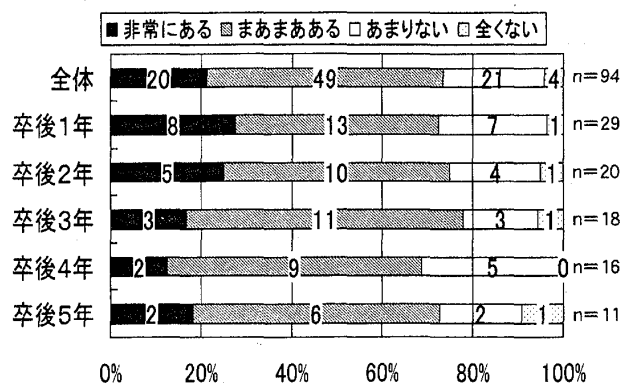


図4 「論文作成」の役立ち

ことになっており、その経験が役立ちとなっている。

6) 発表方法

『発表方法』については、全体で64名（70.3%）が「役立っている」と答えている。発表に関しても、一人ずつ口演発表を行っていることが結果につながっているといえる。

7) プレゼンテーション方法

『プレゼンテーション方法』については、全体で62名（66.6%）が「役立っている」と答えている。近年、パワーポイントを使用しての発表を行っていることや、『発表の仕方』の講義をしていることが役立ちとなっている。

9) 『看護研究』経験に関する全体的な役立ち

『看護研究』の卒後の役立ちについて、全体では61名（64.9%）が「役立っている」と回答した（図5）。そして、「役立っている」と回答した者は卒後3年以内で平均70.1%と高く、卒後4年以上では平均50.9%と低かった。

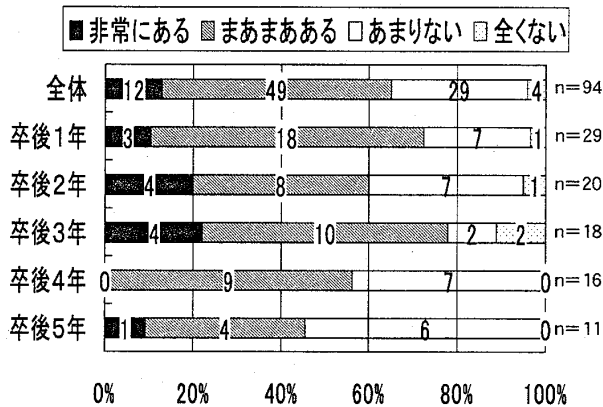


図5 「看護研究」全体の役立ち

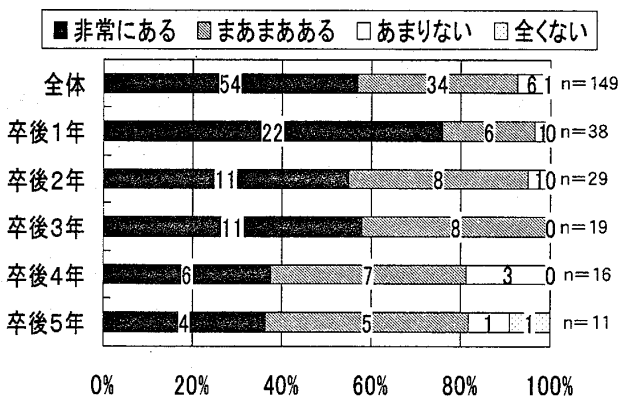


図6 「看護研究」をして良かった

学生時代に『研究を経験したことが良かった』と回答した者は全体で88名（92.6%）と高かった（図6）。

学生の時に『看護研究をしたことが有利に感じる』と回答したものは、全体で74名（77.9%）であり、これも高い値を示している。しかし、『有利に感じる』は、卒後3年以内は平均83.4%と高率なのに比べ、卒後4年以上では61.7%とやや低い結果となった。

IV 考察

1. 臨床での研究経験

臨床での「看護研究」の経験が約40%と低く、卒後5年経っても1度も研究をしたことのないものもあり、経験の差が大きいことがわかった。また、卒後2年目で研究経験数が急増しているのは、スタッフ教育のためのケーススタディを課している病院施設が多いことが影響していると思われる。卒後年数と共に経験者数が徐々に多くなる傾向にあり、臨床経験が長くなるほど、研究にたずさわる機会が増えることがわかった。

『研究方法』については、A短大学生の在学中の『看護研究』の調査³⁾では、「調査研究」が61.1%と最も多く、「事例研究」が24.4%、「実験研究」が5.1%、「その他」が9.5%であり、学生の時には調査研究が最も多く、事例研究は2割程度で少なかった。学生の時は「調査研究」が多かったのに対し、臨床では「事例研究」が多い結果であった。学生時は、研究の時期を前倒しにしたため、臨地実習を体験する前に研究テーマを決定するため、患者とのかかわりが研究動機になりにくくなったことがわかった⁴⁾。そのため、調査研究を多く選択するようになった。一方、臨床では研究の場が病院内であるため、患者やその家族を研究対象とし、事例研究や調査研究が行われ易い。

次に、『研究取組み中の相談者』は院内関係者がほとんどであり、身近な研究経験者をたよりにしていることがわかる。平松ら⁵⁾は、外部講師は、指導時間の確保に困難があり、外部指導者を導入しても十分なサポートは期待できないと述べている。同じく、院内に研究専門のアドバイザーがい

ない⁶⁾とも述べており、病院内での研究のサポート体制が整っていない臨床現場の現状もある。しかし、今回の調査では母校の教員に相談しているものがおり、『看護研究』時の担当教員との結びつきが継続していたと考える。このような個人的な結びつきでの相談だけではなく、大学として、卒後の研究活動をサポートできるシステムをつくり、卒業生が相談し易い環境を整備することも重要である。

2. 臨床現場で行う看護研究の困難点

困難点としては「時間」に関する記述が多く、仕事と研究の両立の難しさを示していた。田中ら⁷⁾、南沢ら⁸⁾も臨床看護師の研究時間の確保の困難性を指摘している。研究に対する知識や適切な指導者がいないことによる協力の少なさが、さらに時間を費やす要因となっている。勤務時間外の私的な時間を削って研究を行う状況では、効率よく進められるようなサポート体制が必要である。「テーマ設定」の困難さを示した記述も多く、大隈ら⁹⁾の報告でも、看護研究を行う上での困難な点として、「テーマ設定」が多いことから、日常の臨床業務の中から得られた疑問点、問題点を深く追求し、まとめてみるというのではなく、何かしなければならぬという義務感から行っていると述べている。「義務感」や「やらされ感」が先に立ち、主体的な取り組みになっていないことも臨床での「看護研究」の困難さを示している。そこで、研究者の意欲の維持のために、研究への動機付けや研究活動中のサポートが重要であり、これが、研究相談者・指導者の役割につながると考える。

3. 『看護研究』の具体的な役立ち

『文献検索方法』については、近年パソコンを使用したものが増加しているため、卒後年数が経つにつれて、新しい情報が得にくく、文献検索に活用できていない。学生時代には学内の図書館などから、文献が手に入り易い環境にあったが、臨床という限られた環境の中での文献検索方法は、学生時のやり方が通用していない。文献検索方法をインターネット検索など、学外でもできるように指導することが必要である。

『データ分析方法』については、研究の動機が

学生と臨床では異なるため、研究方法・分析方法も異なり役立ちに結びつきにくかった。A短大では、『看護研究』はゼミ形式を取っておらず、各教員の指導方法に任せている。看護基礎教育としての『看護研究』では、研究の手法を直接的間接的に理解しておく必要がある。そこで個々の学生の「研究方法」を共有することで、多様な「データ分析方法」を学ぶことができると考える。

また、『論文作成』に関しては、卒後の年数が経過していても、教育の効果が役立ちとしてあることがわかった。学生時代に一人一編の論文をまとめるプロセスを経験することが、卒後の研究活動に大きく役立ちにつながったと考える。

4. 臨床での『看護研究』の役立ち

学生時代に研究を経験したことは、卒後5年経過しても、『良かった』と答えたものが8割を超えており、本学での『看護研究』の効果が高いことを示している。平松ら¹⁰⁾は「研究遂行後には、どのように看護に反映できるかなどという、研究を達成した時のイメージ化が図れるように関わっていくことも大切だと考える」と述べており、学生の時に一通りの研究の流れを経験することで、「達成した時のイメージ化」が図り易く、このことが卒後の役立ちとして、評価を受けることができたのではないかと考える。

V 結論

1. 調査対象者の在学中の看護研究方法は調査研究が多く¹¹⁾、卒後は事例研究の実施が多いことから、『データ分析』方法が異なり役立ちに結びついていない。
2. 『論文作成』について、学生時代の研究経験が役立っており、授業の効果があつた。
3. 全体として、学生時代に『看護研究』を経験することについて、『良かった』と回答したものが、8割を超えており、卒後の効果はあつたと考える。
4. 学生の時に一通りの研究の流れを経験することで、「達成した時のイメージ化」が図り易く、このことが卒後の役立ちとして、評価を受けることができた要因と考える。

5. 『データ分析』に関する研究方法論が、多く学べるようなゼミ形式の導入についての検討や卒業生が相談できるようなサポート体制などの検討が必要である。

引用文献

- 1) 平松みどり・河合敏子・山田恵子他：臨床看護研究の支援体制を充実させる取り組み—研究に取組んだ看護師の面接から「阻害因子」を知る—, 第35回日本看護学会論文集（看護管理）, 9-11, 2004.
- 2) 南沢汎美・雄西智恵美・数間恵子他：臨床看護研究実施上の困難と克服課題 第1次調査報告, 日本看護科学会誌, vol.18, No.1, 52-59, 1998.
- 3) 古城幸子・木下香織・栗本一美他：3年課程看護学生の「看護研究」への取組みと教育評価, 新見公立短期大学紀要, 26, 51-60, 2005
- 4) 前掲載3) 56
- 5) 前掲載1) 11
- 6) 前掲載1) 11
- 7) 田中佑佳子・大槻知子・古澤ひとみ他：看護研究推進のための委員会での取り組み, 第35回日本看護学会論文集（看護教育）, 115-117, 2004.
- 8) 前掲載2) 59
- 9) 大隈節子・西田直子・倉ヶ市絵美佳他：京都市内の国公立病院における看護研究活動の現状, 第30回日本看護学会論文集（看護管理）, 119-121, 1999.
- 10) 前掲載1) 11
- 11) 前掲載3) 120

How Helpful Nursing Research in Fundamental Nursing Education is to the Research Activity after Graduation — From past five years' graduate survey —

Hiromi OKA, Kazumi KURIMOTO, Kaori KINOSHITA, Sachiko KOJO
Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

Now nursing research is essential in the clinical practice field as well. A graduate questionnaire was conducted in order to understand how to do nursing research in hospitals, to find out how helpful Nursing Research at college was and to reveal the problems in teaching Nursing Research.

The result shows that the research method and data analysis method learned at college were not very helpful, but that what was learned in Nursing Research was very helpful to essay writing. On the whole, more than 80% responded that studying Nursing Research was good and helpful to the research activity after graduation.

資料1 調査用紙

「看護研究」に関する調査

2006.1.25

この調査は「看護研究」への取組みについて、皆さんの臨床現場の実状を把握し、今後、短大における「看護研究」への教育指導上の課題を明らかにすることが目的です。本調査は無記名で、個人的な情報については匿名性が保持され、またデータは統計的に処理します。率直なご意見をいただき、より質の高い教育へと還元したいと考えています。ご協力ください。

以下の質問に対して、該当する項目あるいは数字を○で囲んでください。また、[]内は自由に記入してください。

I 属性についてお聞きします。

- 1、卒業後何年目ですか。()年目 2、短大卒業後、進学しましたか。(①はい ②いいえ)
 3、2で“はい”と答えた方のみお答えください。卒業後の進路はどれですか。
 ①大学編入 ②保・助・養護教諭進学 ③その他・通信制など []

II 現場での研究活動についてお聞きします。

なお、短大時代の「看護研究」は学外発表も含めて、以下の質問の回答には入れないでください。

- 1、いままでに職場で看護研究を実施しましたか。(①はい ②いいえ)
 1で“はい”と答えた方は、以下の質問にお答えください。1で“いいえ”と答えた方は、次ページのⅢにお進みください。

- 2、1で“はい”と答えた方のみお答えください。(1)研究を何回取り組みましたか。()回

以下の質問では、研究を複数回された場合は、そのすべてについてお答えください。

- (2)研究は何人で行いましたか。(①1人 ②2人以上)
 (3)研究のキーワードをお書きください。[] [] []
 (4)その研究方法は以下のどれですか。
 ①事例 ②調査(質問紙) ③調査(面接) ④実験 ⑤その他 []
 (5)研究発表をされましたか。(①はい ②いいえ)
 (6)(5)で“はい”と答えた方は、どこで発表しましたか。①院内 ②院外[学会名:]
 (7)論文として投稿されましたか。(①はい ②いいえ)
 (8)(7)で“はい”と答えた方は、投稿先を教えてください。①院内誌 ②院外誌[誌名:]

3、研究プロセスについてお聞きします。

- (1)研究を行うにあたり、指導や相談をする人がいましたか。(①はい ②いいえ)
 (2)(1)で“はい”と答えた方は、誰に相談・指導を受けましたか。
 ①師長 ②上司 ③先輩 ④同僚 ⑤院内研究委員 ⑥院外研修指導者 ⑦その他 []
 (3)先行研究を検索する手段がありましたか。(①ある ②ない)
 (4)(3)で“はい”と答えた方は、検索方法をお書きください。

- ①院内図書室 ②大学図書室 ③インターネット ④医学中央雑誌 ⑤CiNii ⑥最新看護索引 ⑦その他 []

Ⅲ 現在、臨床現場で看護研究を行う際、困っていることがあればお書きください。

()

IV 本学で行った「看護研究」についてお尋ねします。

数字の意味は枠内に示すとおりです。

| | |
|---|-----------|
| 1 | 全くあてはまる |
| 2 | あまりあてはまる |
| 3 | まあまああてはまる |
| 4 | ほとんどあてはまる |
| 5 | 完全にあてはまる |

- 1、学生のときに選択したテーマが今でも研究テーマである。(4 3 2 1)
 2、学生のときに行った研究計画書作成方法が役に立っている。(4 3 2 1)
 3、学生のときに学んだ倫理的配慮についての知識が役に立っている。(4 3 2 1)
 4、学生のときに行った文献検索方法が役に立っている。(4 3 2 1)
 5、学生のときに行ったデータ分析方法が役に立っている。(4 3 2 1)
 6、学生のときに行った論文作成方法が役に立っている。(4 3 2 1)
 7、学生のときに行った発表方法が役に立っている。(4 3 2 1)
 8、学生のときに行ったプレゼンテーション方法が役に立っている。(4 3 2 1)
 9、研究のプロセスは卒業後十分に役立っている。(4 3 2 1)
 10、学生のときに看護研究をやっていた良かった。(4 3 2 1)
 11、学生のときに看護研究をしたことが有利に感じる。(4 3 2 1)

VI その他「看護研究」に関して気づいたこと、感じたことがあったら教えてください。

() ご協力ありがとうございました。

看護基礎教育「看護研究」の卒後の研究活動への役立ち

資料2 アンケート結果（データは調査用紙の回答番号に答えた人数を示す）

| | I-1 | I-2 | I-3 | II-1 | II-2 | | | | | | II-3 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|-----|---------|----------|-----------|-----------|-----------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|-----------------|------|-------------|------------|------------------|------------|------------|------------------|------------|-------------|---------------|-------------|----|
| 質問 内容 | 年数 | 進学 | 進学 先 | 研究 実施 | (1) 回数 | (2) 人数 | (4) 研究 方法 | (5) 発表 | (6) 発表先 | (7) 投稿 | (8) 投稿先 | (1) 相談 | (2) 相談者 | (3) 検索 | (4) 検索 方法 | IV-1 | IV-2 計画書 | IV-3 倫理 | IV-4 検索 方法 | IV-5 分析 | IV-6 論文 | IV-7 発表 方法 | IV-8 ゼン | IV-9 役立ち | IV-10 良かった | IV-11 有利 | |
| 卒後1年 | ① | 33 | 7 | 2 | 3 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 8 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | |
| | ② | 0 | 26 | 5 | 28 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 13 | 11 | 1 | 9 | 12 | 7 | 6 | 6 | 7 | 1 | 4 | |
| | ③ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 7 | 16 | 13 | 10 | 13 | 11 | 9 | 18 | 6 | 13 | | |
| | ④ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 15 | 9 | 2 | 8 | 10 | 13 | 3 | 22 | |
| | ⑤ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑥ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑦ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 卒後2年 | ① | 2 | 5 | 3 | 9 | 8 | 6 | 7 | 8 | 5 | 0 | 9 | 6 | 8 | 2 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| | ② | 18 | 16 | 2 | 11 | 1 | 3 | 1 | 1 | 3 | 8 | 0 | 4 | 0 | 4 | 6 | 3 | 3 | 5 | 7 | 4 | 5 | 5 | 7 | 1 | 3 | |
| | ③ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 6 | 13 | 9 | 9 | 5 | 10 | 7 | 7 | 8 | 9 | | |
| | ④ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 3 | 7 | 5 | 3 | 5 | 6 | 6 | 4 | 11 | 8 | |
| | ⑤ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑥ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑦ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 卒後3年 | ① | 0 | 7 | 0 | 8 | 6 | 2 | 2 | 6 | 5 | 2 | 1 | 8 | 4 | 8 | 2 | 3 | 5 | 2 | 3 | 10 | 3 | 2 | 5 | 2 | 0 | 2 |
| | ② | 0 | 12 | 6 | 11 | 1 | 6 | 5 | 1 | 2 | 4 | 2 | 0 | 4 | 0 | 4 | 3 | 5 | 2 | 3 | 10 | 3 | 2 | 5 | 2 | 0 | 2 |
| | ③ | 18 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 4 | 8 | 11 | 10 | 8 | 5 | 11 | 11 | 9 | 10 | 8 | 8 | |
| | ④ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 | 0 | 1 | 4 | 5 | 2 | 3 | 4 | 3 | 4 | 11 | 7 |
| | ⑤ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑥ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑦ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 卒後4年 | ① | 0 | 4 | 1 | 10 | 5 | 1 | 2 | 9 | 7 | 1 | 1 | 10 | 5 | 10 | 8 | 10 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | ② | 0 | 14 | 3 | 8 | 5 | 9 | 7 | 1 | 2 | 9 | 0 | 0 | 4 | 0 | 3 | 2 | 7 | 5 | 8 | 5 | 6 | 6 | 7 | 3 | 5 | |
| | ③ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 3 | 7 | 9 | 6 | 6 | 9 | 9 | 8 | 9 | 7 | 6 | |
| | ④ | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 6 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 6 | 5 | |
| | ⑤ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑥ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑦ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 卒後5年 | ① | 0 | 3 | 0 | 8 | 4 | 0 | 2 | 7 | 3 | 2 | 1 | 8 | 2 | 8 | 3 | 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| | ② | 0 | 8 | 3 | 3 | 6 | 3 | 1 | 4 | 6 | 1 | 0 | 4 | 0 | 2 | 2 | 7 | 2 | 5 | 6 | 2 | 3 | 4 | 6 | 1 | 4 | |
| | ③ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 3 | 3 | 2 | 7 | 3 | 4 | 6 | 5 | 4 | 4 | 5 | 3 | |
| | ④ | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 | 2 | 1 | 4 | 3 | |
| | ⑤ | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑥ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑦ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 全体 | ① | 35 | 26 | 6 | 38 | 26 | 11 | 14 | 32 | 22 | 5 | 3 | 38 | 17 | 36 | 15 | 39 | 4 | 3 | 4 | 11 | 4 | 5 | 5 | 4 | 1 | 3 |
| | ② | 18 | 76 | 19 | 61 | 10 | 25 | 17 | 5 | 11 | 30 | 3 | 0 | 16 | 1 | 14 | 26 | 33 | 13 | 30 | 43 | 21 | 22 | 26 | 29 | 6 | 18 |
| | ③ | 19 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 15 | 27 | 49 | 48 | 36 | 33 | 49 | 43 | 37 | 49 | 34 | 39 |
| | ④ | 21 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 0 | 18 | 3 | 8 | 29 | 23 | 7 | 20 | 23 | 25 | 12 | 54 | 35 |
| | ⑤ | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ⑥ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ⑦ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |